

地方独立行政法人さんむ医療センター
平成 30 事業年度の業務実績に関する評価結果

令和元年 8 月

山 武 市

目 次

*** 年度評価の考え方 ***

〈評価の基本方針〉	1
〈年度評価の方法〉	1

*** 平成 30 事業年度の業務実績に関する評価結果 ***

1. 全体評価	
(1) 評価結果	2
(2) 全体評価に当たって考慮した事項	2
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	3
2. 大項目評価	
(1) 「第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価	4
① 評価結果	4
② 判断理由	4
【大項目評価に当たり考慮した事項】	4
③ 評価に当たっての意見、指摘等	5
(2) 「第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」に関する大項目評価	5
① 評価結果	5
② 判断理由	5
【大項目評価に当たり考慮した事項】	6
③ 評価に当たっての意見、指摘等	6
(3) 「第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(4) 「第7 剰余金の使途」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(5) 「第8 料金に関する事項」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(6) 「第9 その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
【大項目評価に当たり考慮した事項】	7
③ 評価に当たっての意見、指摘等	8
○地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会 委員名簿	9
○令和元年度地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会開催経過	9

*** 年度評価の考え方 ***

地方独立行政法人法の改正により、昨年度から法人の評価者が評価委員会から設置団体の長に見直しされ、評価委員会の関与が一部なくなりましたが、設置団体である山武市（以下「市」という。）としましては、地方独立行政法人さんむ医療センター（以下「さんむ医療センター」という。）の業務を適正に評価するためには、引き続き地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の専門的な知見に基づく意見と継続的かつ積極的な関与が必要と考え、評価委員会から意見をいただけるよう評価委員会条例を改正して、評価委員会の意見を聞き、平成 22 年 4 月 1 日に設立されたさんむ医療センターについて、法人化して 9 年目の平成 30 事業年度の業務実績に関する評価を行った。

〈評価の基本方針〉

- (1) 中期目標・中期計画の達成状況等からさんむ医療センターの業務運営等に関して多面的な観点から総合的に評価を行い、さんむ医療センター運営の質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通して、中期目標・中期計画の達成状況や取り組み状況を市民に分かりやすく示すものとする。
- (3) 業務運営の改善や効率化等の特色ある取り組みや様々な工夫を積極的に評価するものとする。
- (4) さんむ医療センターを取り巻く環境の変化等を踏まえ、必要に応じて評価の方法を見直すものとする。

〈年度評価の方法〉

当該年度計画に定めた事項ごとに行う「項目別評価」と業務実績全体の進捗状況について行う「全体評価」の2つを併せて行った。

(1) 項目別評価の方法

項目別評価は、以下の市による、①小項目評価、②大項目評価の手順で行った。

① 小項目評価

市において、法人の自己評価及び目標設定の妥当性などを総合的に検証し、年度計画の小項目ごとの進捗状況について評価を行った。

② 大項目評価

市において、小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について評価を行った。

(2) 全体評価の方法

① 市において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行った。

② 全体評価においては、地方独立行政法人化を契機とした病院改革の取り組み（さんむ医療センター運営における自律性・機動性の発揮、財務内容の改善、病院運営の透明性の向上など）を積極的に評価した。

*** 平成 30 事業年度の業務実績に関する評価結果 ***

1. 全体評価

(1) 評価結果

地方独立行政法人さんむ医療センターは、平成 22 年 4 月 1 日に地方独立行政法人として設立され 9 年目の決算を迎えました。また、平成 29 年 4 月より第 3 期（期間 3 年間）の中期目標及び中期計画の 2 年目となり、地域に根差した地方独立行政法人病院としてより一層の成長が求められています。

平成 30 事業年度の業務実績については、年度計画で掲げている以下 6 つの大項目

- ① 「第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」
- ② 「第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」
- ③ 「第 4 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画」
- ④ 「第 7 剰余金の使途」
- ⑤ 「第 8 料金に関する事項」
- ⑥ 「第 9 その他業務運営に関する重要事項」

の評価において、中期計画目標値すべての達成には至らなかったが、厳しい医療環境下で経営の安定に努力したことを認め、A 評価 2 件、B 評価 4 件とした。

(2) 全体評価に当たって考慮した事項

- ① 「第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の大項目においては、病院運営全般に関する重要な事項としては、平成 30 年 4 月に 5 病棟の稼働病床を 12 床から 34 床にすることにより、一般病床を 137 床から 159 床に増床することができた。診療体制については、平成 30 年度は常勤医師 34 名体制を維持し、産婦人科については、平成 30 年度の年間分娩数が 249 件となり「産み育てられる街」として周産期医療の安定を図った。平成 30 年 10 月より市と連携し産後ケア事業を開始し産後のケアにも貢献できるよう努めた。

一方、看護師離職率が 10.2% へ増加し、看護師人数が目標値に達しなかったことなどから課題があるが、サービスの向上等に積極的な取り組みを行い、患者及び住民の医療ニーズに対し最大限に応え良好な業務結果を残したことにより B 評価とした。

- ② 「第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目において、評価すべき内容として、DPC 並びに第 3 期中期計画モニタリング等業務において経営コンサルタントと連携のもと経営管理機能の強化を図りその成果が認められるこ

と、看護基準が7対1を堅持したこと、回復期リハビリテーション病棟並びに緩和ケア病棟の病床利用率の向上及び一般病棟の効率性上昇を図ったことが認められる。経営状況については、入院収益及び外来収益の確保において、入院患者数は目標数値には届かなかったが、外来患者数は目標数値を上回ることができた。

また、平成29年度実績との比較では、入院患者数が9.4%、外来患者数は、8.6%の増となった。また、患者1人1日当たりの入院診療単価・外来診療単価については、ともに平成29年度実績を上回ることができた。

一方、人件費比率が高いこと、入院患者数が目標に達していないことがあるがDPC機能評価係数の向上が見られることを踏まえると、公的病院としての役割を果たしていることなどから**B評価**とした。

③ 特筆すべき取り組み

ア 産婦人科医2名体制を維持するとともに、周産期の医療を推し進めていく上で必要な助産師2名増員し9名体制として周産期の医療の安定を図ったこと。

イ 地域医療機関との連携に努めて救急医療を実施し、厳しい医療体制の中で前年度実績を上回ったこと。

ウ 地域がん診療病院としてグループ指定先病院と連携体制を構築するとともに地域のがん医療の向上に努めたこと。

エ 看護部に入退院支援課を新設し、入院前から退院後の生活を見据えた支援・介入を開始したこと。

オ 新型インフルエンザ県内感染期における地域関係機関との連携体制や院内感染予防を図るため、千葉県との共催で実働訓練を実施したこと。

カ 千葉県地域DMAT1隊を編成し、災害対応力の強化を図ったこと。

キ 山武市及びさんむ医療センターが制定した奨学金制度を活用するとともに地域医療の実習・教育実習・職場体験の受け入れ等を積極的に実施し、医師・看護師・医療技術職員の人材確保に努めたこと。

ク 建替整備については、建替整備基本計画を策定したこと。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ① 職員の就労環境（体制）の整備については、改善に向けて具体的な取り組みに努めること。
- ② 医師の就労関係について柔軟な勤務体制をとること。
- ③ 引き続きDPC導入による効果的な医療の実践、回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟及び地域包括ケア病棟の計画的な取り組みに努め、医療収益の向上に努めること。
- ④ 総合診療医を養成するため、研修体制、地域の中核を担う医療体制の充実を図ること
- ⑤ 地域の中核病院として医療・介護・保健の連携強化を推進すること。
- ⑥ 引き続き、二次救急医療輪番体制を担い地域の特性に配慮した医療に努めること。
- ⑦ 損益については前年に引き続き2億4,604万6,923円の黒字となり、経営状況は概ね順調である。
- ⑧ 建替整備計画については、建替整備基本計画通りの推進に期待する。

2. 大項目評価

(1) 「第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

小項目の集計結果（《 第2表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【 大項目評価に当たり考慮した事項 】で示しているように、診療体制の整備と地域医療連携の推進に努力したこと、救急医療の充実、医療水準の向上、患者サービスの一層の向上、安心して信頼できる良質な医療の提供などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

《 第1表 大項目の評価方法 》

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項等の内容を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況について、次の4段階により評価する。

A：中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる

B：中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる

C：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている

D：中期目標・中期計画の達成のためには改善事項あり

【 大項目評価に当たり考慮した事項 】

※ 小項目評価がA評価3件、B評価18件であった。

(以下、〔項目番号：大項目-中項目-小項目〕の番号である。)

ア 診療体制の整備〔項目番号：第2-1-(1)〕

一般稼働病床数が159床と前年度と比較して22床増床し、診療体制の充実と強化として、年度中に内科常勤医2名、外科常勤医1名、小児科常勤医1名を確保し人材確保に努めたこと。

イ 医療職の専門性及び医療技術の向上〔項目番号：第2-2-(2)〕

研修計画に基づき積極的に研修の支援を行い専門的分野での資格取得を促進し、「自己啓発休業に関する規定」に基づき奨学金制度を活用し認定看護師教育機関に1名、助産師教育機関に1名進学予定であること。

ウ 地域医療連携の推進〔項目番号：第2-2-(3)〕

地域がん診療病院としてグループ指定先病院と連携体制を構築するとともに地域のがん医療の向上に努めたこと。また山武地区在宅緩和ケアネットワークに協力機関として参加し、近隣の診療所、訪問看護ステーション、薬局、ケアマネージャー等と積極的に連携し、緩和ケア外来の患者を24時間体制で支援したこと。

エ 安全対策の徹底〔項目番号：第2-4-（1）〕

医療における様々な安全対策について、関係する職員に徹底した研修を行い、その強化と実施に努めたこと。

《 第2表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数 21 項目に対し、B評価（年度計画をほぼ順調に実施している）が 18 項目であり、割合は 18/21 と 8 割以上を占めることから、B評価（中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる）とした。

中項目 \ 小項目評価区分	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地域の特性に配慮した医療の確立と提供	3	1	2		
2 医療水準の向上	5	1	4		
3 患者サービスの一層の向上	5		5		
4 安心して信頼できる良質な医療の提供	4	1	3		
5 市の医療施策推進における役割	4		4		
合計	21	3	18		

③ 評価に当たっての意見、指摘等

- ア 医師・看護師等の人的資源を確保出来るかが課題である。
- イ 安心・安全な医療を地域に提供すること。

(2) 「第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

小項目の集計結果（《 第3表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、地

方独立行政法人としての運営管理体制の確立、効率的かつ弾力的な業務運営などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

【 大項目評価に当たり考慮した事項 】

※ 小項目評価がA評価の項目は、次の1件であった。
 (以下、〔項目番号：大項目-中項目-小項目〕の番号である。)

ア 収入の確保と費用の節減〔項目番号：第3-2-(8)〕

DPCデータの活用について専門コンサルタントの定期的なモニタリングを受け、回復リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟の病床利用率と一般病棟の効率性を上昇させたこと。後発医薬品の切替えについては、薬事委員会が中心となり積極的に切替えを行い費用の削減に努めたこと。

○ 後発医薬品の採用率
 ・数量ベース 97.5% (目標値 98.0%)

《 第3表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数9項目に対し、B評価（年度計画をほぼ順調に実施している）が8項目であり、割合は8/9と8割以上を占めることから、B評価（中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる）とした。

中項目 \ 小項目評価区分	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地方独立行政法人としての運営管理体制の持続的な発展	1		1		
2 効率的かつ効果的な業務運営	8	1	7		
合計	9	1	8		

③ 評価に当たっての意見、指摘等

- ア 事務職の体制が十分に整っていない。今後の業務運営においてプロパー職員の育成が急務である。
- イ 人件費比率については、目標を達成しているが、更なる向上に努めること。
- ウ 費用の節減に引き続き努めること。
- エ 職員（特に医師）の就労関係について柔軟な勤務体制をとること。

(3) 「第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画」に関する大項目評価

① 評価結果

A評価

② 判断理由

財務内容の数値評価項目において改善が認められること。

(4) 「第7 剰余金の使途」に関する大項目評価

① 評価結果

A評価

② 判断理由

剰余金の使途を明確にしている。

(5) 「第8 料金に関する事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

使用料及び手数料に規定に基づき適正に執行されている。

(6) 「第9 その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

小項目の集計結果（《 第4表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【 大項目評価に当たり考慮した事項 】で示しているように、施設整備の推進の成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

【 大項目評価に当たり考慮した事項 】

※ 中・小項目評価がB評価の項目は、次の2件であった。

（以下、〔項目番号：大項目-中項目〕の番号である。）

ア 施設整備の推進〔項目番号：第9-1〕

介護老人保健施設及び病児保育施設（山武市と協力のもと地域の子育て支援策として設置）を検討中

イ 病院機能の拡充〔項目番号：第9-2〕

建替整備については、建替整備基本計画を策定したこと。

《 第4表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数2項目に対し、病院機能の拡充がB評価（年度計画をほぼ順調に実施している）、施設整備の推進がC評価であり、2項目は併せて進行されており、総合的に評価しB評価（中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる）とした。

中項目 \ 小項目評価区分	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 施設整備の推進	1			1	
2 病院機能の拡充	1		1		
合 計	2		1	1	

③ 評価に当たっての意見、指摘等

ア 建替整備については、建替整備基本計画通りの推進に期待する。

○地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会 委員名簿

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	村 上 信 乃	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院 名誉院長
副 委 員 長	長 隆	監査法人 長隆事務所 代表社員
委 員	伊 藤 よしみ	山武市三師会 会長
委 員	井 上 智 子	国立看護大学校 校長
委 員	加 藤 誠	成田赤十字病院 名誉院長
委 員	亀 田 信 介	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 院長
委 員	松 原 久 裕	千葉大学 大学院医学研究院 教授 医学部附属病院 副病院長
委 員	光 本 篤 史	城西国際大学 地域連携推進センター所長 薬学部長

(敬称略、委員は五十音順)

○令和元年度地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会開催経過

日 程	審 議 議 題
<p>【 第 1 回 】</p> <p>令和元年 7 月 25 日 (木)</p> <p>山武市役所第 5 会議室</p>	<p>(1) 地方独立行政法人さんむ医療センターにおける平成30事業年度業務実績の評価に関する意見について</p> <p>(2) 財務諸表等への意見について</p> <p>(3) 地方独立行政法人さんむ医療センターにおける第 3 期中期目標期間業務実績の見込み評価に関する意見について</p> <p>(4) 新公立病院改革プランの進捗について</p> <p>(5) 地方独立行政法人さんむ医療センター第4期中期目標 (案) について (令和2年度～令和5年度)</p> <p>(6) 地方独立行政法人さんむ医療センター建替整備基本計画 (素案) について</p>